

介護予防サービス利用者における日常生活の過ごし方と要介護認定等の推移との関連

Activities in Daily Life and Changes in Care Level among Users of Preventive Care Service under Long-Term Care Insurance.

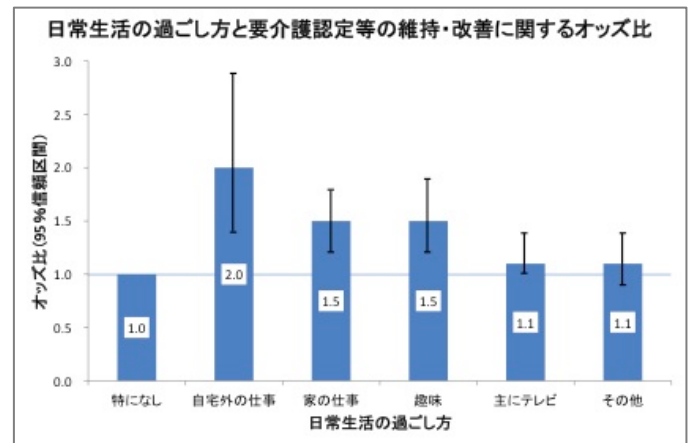
2012 年 日本衛生学雑誌 発表

介護予防サービス利用者において社会的役割や趣味を持っている者は要介護認定等の状況が維持・改善する

高齢者が自宅内外での役割や趣味を持つことの重要性は先行研究でも報告されています。しかし、これまでの先行研究は健康レベルや心身機能レベルの比較的良好な地域住民を対象としており、介護予防サービス利用者のような生活機能の低下した者を対象とした研究は行われていません。

そこで、本研究では、介護予防サービス利用者を対象として、日常生活の過ごし方の種類に着目し、自宅外の仕事での役割、家の仕事での役割、趣味が要介護認定等の維持・改善へ及ぼす影響について検討しました。

その結果、日常生活の過ごし方で「特になし」と回答した者に比べ、「自宅外の仕事（役割）」、「家の仕事（役割）」、「趣味」と回答した者で、有意に要介護認定等の状況が維持・改善することが示されました。これにより、生活機能の低下した対象者においても、自宅内外での役割や趣味を持つことの重要性が示されました。



研究データについて

対象者は、46 都道府県、83 ヶ所の地域包括支援センターにおいて、予防給付または地域支援事業特定高齢者施策のために介護予防ケアプランを作成された者全員（特定高齢者・要支援者）としました。調査期間は平成 19 年 1 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日までとして、対象者は随時登録されました。登録された者から、年齢が 40 歳未満・106 歳以上の者、初回調査時の要介護認定等の状況に未回答の者、初回調査のみ行われた者、サービス開始より 3 ヶ月以上経過してから本調査に登録された者、最終回調査時に要介護認定等の状況に未回答の者を除外し、最終的に 8,734 人（男性 2,139 人、女性 6,595 人）を解析対象者としました。要介護認定等の推移は、ベースライン時と最終回調査時（サービス離脱時含む）との比較から要介護認定等の維持・改善、悪化について評価しました。日常生活の過ごし方は、「日中、おもな過ごし方はどれですか」という質問から「自宅外の仕事（役割）」、「家の仕事（役割）」、「趣味」、「主にテレビ」、「その他」、「特になし」のうち 1 つを選択するよう求めました。統計解析は、日常生活の過ごし方が要介護認定等の推移に及ぼす影響を明らかにするため、交絡要因を調整した多重ロジスティック回帰分析を実施しました。目的変数は要介護認定等の維持及び改善、説明変数は日常生活の過ごし方とし、「特になし」群を基準として、「自宅外の仕事（役割）」群、「家の仕事（役割）」群、「趣味」群、「主にテレビ」群、「その他」群別に、要介護認定等の維持・改善に関するオッズ比（95% 信頼区間）を算出しました。調整項目として用いた変数は、年齢、性別、同居者、疾患既往歴（脳血管疾患、関節疾患、認知症、骨折・転倒、高齢による衰弱）、基本チェックリスト得点、うつ状態、認知機能、認知的活動、地域包括支援センター 83 ヶ所（要介護認定等の維持・改善率が高い地域包括支援センターの順に 10 分類）でした。

研究の特徴と限界について

本研究では、生活機能の低下した高齢者でも社会的役割や趣味を持つことの重要性を示すことができました。また、対象者は全国 46 都道府県、83 ヶ所の地域包括支援センターから集められた特定高齢者・要支援者 8,734 人であり、代表性、サンプル数ともに優れています。本研究の限界として以下のことが考えられました。本研究の調査期間は 2 年間であったことから、介護予防サービス利用者における社会的役割や趣味が要介護認定等の推移に与える長期的な影響は分かりませんでした。長期的な影響を調査することは、高齢者の健康寿命の延長を目指すうえで重要となるため、さらなる調査が必要と考えます。